運営推進会議　記録

事業所名	地域密着型特別養護老人ホーム妻の杜
所在地	西都市妻 1680-1
サービス種類	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
開催日時	令和 8 年度 第 3 回　令和 8 年 9 月 25 日（金）13:30～14:30
開催場所	地域交流室なのはな
出席者 計８名	1. **ご利用者の代表者**　： 2. **ご利用者の家族代表者**　：合田　修一様 3. **地域住民の代表者**　：民生児童委員妻地区会長 清田　芳弘様 4. **地域包括支援センターの職員**：南包括　八代　直美様 5. **介護支援専門員**　：吉本浩美（妻の杜施設ケアマネ） 6. **施設運営に関する助言者**　：幸楽荘施設長　竹田　竜介様 ：健康管理課介護保険係 井下　朗子様 ：白馬デイサービスセンター 施設長　松浦恵美 7. **施設長（司会）**　：川﨑　桂
議題	１．　高齢者虐待防止の取り組みについて ・職員の意識調査結果 □　虐待防止研修を受けて職員一人ひとりが「不適切なケアをしない」意識をもって業務に当たっている。 □　一方で、職員の急な休みが発生すると、現場が慌ただしくなり心理的なストレスから不適切な言動が次いでてしまう状況がある。 □　利用者を支えるために必要な職員数をどのように確保するか、急な欠勤が発生した際にどのように対応するかが課題となっている。 □　ショートステイは 19 床あり、働率が高い場合、通常の人員だけでは対応が難しいことがあるので、稼働に合わせたシフト組みの工夫が必要。 □　そのような場合には、他部署の職員にも業務を手伝ってもらうなど、施設全体で対応している。 □　部署の枠にとらわれず、施設全体で利用者を支える意識を職員が共有することが重要である。

	・委員会活動報告 □　職員自身がストレスや怒りをどの程度コントロールできているかを振り返るセルフチェックを開始した。 □　現時点では、毎月 1 回の実施を予定している。 □　デジタル形式のアンケートを使用し、職員が回答する。 □　チェックリストは約 50 項目で、慣れない場合は 10 分程度、慣れれば 5 分程度で回答できる内容となっている。 □　自分自身の行動だけでなく、自分が働く職場や施設全体をどのように捉えているかを確認する項目も含まれている。 □　「虐待は基本的人権の侵害である」といった基本的理解や、虐待防止研修で学んだ内容を繰り返し確認できる構成となっている。 □　回答から問題が認められた場合は、虐待防止委員会で対応する。 □　職員の業務中の様子についても、必要に応じて意見や情報を集めながら確認していく。 ・研修報告 □　施設は 365 日・24 時間のシフト勤務であり、職員全員を集めた集合研修の実施が難しい。そのため、パソコンやスマートフォンなどを利用した研修、アンケートおよび理解度確認を進めている。 □　アンガーマネジメント研修では、怒りの感情を理解し、その原因を自分で見つめ、適切に対応することを主題とした。 □　怒りが高まったときは、一呼吸置く、その場をいったん離れるなど、冷静になる時間をつくることが大切であると理解した。 □　「こうするべき」「こうしてくれるべき」といった「べき思考」が、怒りを強める一因になることを理解した。 □　研修後の回答からは、不適切ケアを防ぐ行動や、強い怒り・ストレスを感じた際の対応方法について、職員の理解がおおむね得られていると確認した。 □　回答は個人単位でも確認できるため、認識に差がある職員がいないかについても確認している。 **出席者からの発言** （竹田）「幸楽荘では集合研修を行っている」「どうしてもグレーゾーンみたいな利用者対応が見られることもある」「かといっ

	て、その度に研修が実施できないため、定期のセルフチェックの実施はとても参考になる。」 ２．　併設事業所「白馬デイサービスセンター」紹介 □　デイサービスセンターは 1999 年に開設され、当初は保育園の園庭内に併設されていた。 □　高齢者と子どもの多世代交流を大切にし、一緒にラジオ体操を行う、子どもがお茶を配る手伝いをするなど、日常生活の中で交流していた。 □　現在地への移転後、利用定員を 25 人から 30 人に増員した。 □　過去には利用率が 60%に届かない時期があり、事業の継続が課題となった。 □　その際、「利用者をもう一度見つめ直す」ことから取組を始めた。 □　従来は、職員側が考える機能訓練と、利用者本人が希望する過ごし方との間に差があった。 □　利用者一人ひとりの「やりたいこと」を拾い、手工芸、習字、絵など、本人の得意なことや興味に合わせた個別的な支援を進めた。 □　その結果、利用者から選ばれるデイサービスとなり、報告時点の前月には利用率が 90%となった。 □　毎日同じ内容を提供するのではなく、「今日は何があるのかな」と楽しみにしてもらえる、飽きのこないデイサービスづくりを進めている。 □　楽しみの中に機能訓練や認知症予防を取り入れ、利用者が地域で元気に暮らし続けられるよう支援している。 □　ボランティアの受入れ、誕生会、写真撮影会などを通じて、地域との交流や情報発信にも取り組んでいる。 □　利用者の言葉（つぶやき）を拾って活動につなげている。 □　デイサービスだけで活動するのではなく、建物全体で交流することを大切にしている。 □　デイサービス職員と入所部門の職員が日頃から交流し、互いの利用者の名前や状況が分かる「顔の見える関係」を築いている。

報告事項	１．利用者数や要介護度等利用者の状況 ２．8/21「夏祭り」行事実施報告 ３．妻高福祉科 2 年生実習の受け入れ（9 月実施、10 月予定）について
評価 感想 等	行事の取り組みについて、利用者世代に合わせた内容やボランティアの受け入れなどに関心が集まった。
要望・意見 助言 等	□　虐待防止に係る再発防止策を今後も継続する。 □　アンガーマネジメント研修を職員の実践につなげる。 □　毎月 1 回のセルフチェックを通じて、職員のストレスや怒りへの対処状況を確認する。 □　セルフチェックで課題が確認された場合は、虐待防止委員会で対応を検討する。 □　急な欠勤や利用者数の増加時には、部署を越えた応援体制を整える。 □　デイサービスでは、利用者本人の「やりたいこと」を起点とした個別的な活動を継続する。 □　建物全体で職員と利用者が交流し、顔の見える関係づくりを進める。 □　ボランティアや地域住民との交流を継続する。
その他	次回開催予定：11 月 27 日（金）13:30～